

## 会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会（専門部会）

2 開催日時

令和 8 年 1 月 16 日（金） 午後 6 時 00 分から午後 7 時 50 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 202・203 会議室

4 出席した者の氏名

（1）委員

（専門部会委員）羽賀祥二、佐々木重洋、岡本耕平、可児光生、笈真理子、中野裕子

（調査執筆委員）永田幸枝、望月友恵、大島敏裕、岡田和明、矢田達也

（2）執行機関

（歴史まちづくり課）加藤課長、小川課長補佐、市野統括主査、鈴木主査補、河合

5 議題

（1）通史編の内容について

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

1. 開会

2. 議題

（1）通史編の内容について

事務局：1 月 15 日時点で全 12 章 45 節 149 項目のうち 129 項目、87%ほどの原稿が提出された。その後、本日までに 10 項目分が追加され、139 項目 93%ほどが提出済みである。ページ数は本日までの提出分を含めて 723 ページ、本文の割り当て 680 ページを超えている。未提出分や図版レイアウトのない原稿もあるため、ページ数としてはさらに増える。「はじめに」「おわりに」等を含めると全体で 1,000 ページ近くなる可能性がある。原稿確認表に、章の割り当てページ数との差分を示す欄を設けた。現状では第 2 章が大きく超過している。

部会長：未提出はあと 10 項目分となった。本文以外のページ数はどんな内訳だったか。

事務局：前付で 32 ページ、後付で 60 ページを見込んでいる。

部会長：後付は年表や参考文献を含むため多く見込んでいる。参考文献は文字を小さくしてもページ数が膨らむだろう。図版を加味すると全体で 2 割程度のページ数削減が必要だ。大幅に超過している第 2 章の執筆者に対しては、私から直接修正をお願いしている。全体のバランスが取れないため項目の整理とページ数の削減を要請した。また、原稿が揃わないと全体を通読できないので、未提出者には早急に出してもらえようプッシュしたい。

事務局：12 月 18 日時点の原稿を中心に通読し、気になった点や読んだ印象をまとめた。主に、記載内容の重複や調整、ページ削減に向けた再構成に関わるものである。一部、修正後原稿を踏まえていないものもあるがご了承いただきたい。

#### 【重複の解消、内容の再構成】

▶第 2 章第 1 節の総合計画：他章の基礎となる項目である。時代背景や策定プロセス、重点施策をもう少し丁寧に記載した方がよい。平成期は第 3 次～第 5 次が中心だが、他章には前後の計画も出てくるので全般的に触れておきたい。現状、第 2 章第 2 節「2 行政改革の進展」で総合計画策定の背景に触れているので、これを統合させて肉付けしてはどうか。

▶第 2 章第 1 節の都市計画、第 3 章第 1 節の人口、土地利用：人口目標、就業状況、宅地造成などの内容が重複している。特に同章内（第 3 章）の重複は目につくため調整をお願いしたい。また、ここも全体の基礎となる内容のため、社会背景や施策を踏まえた肉付けがほしい。重複を省きつつ必要な内容を加筆して、現状のページ数が維持できるとよい。

▶第 2 章第 2 節の行財政、議会関連：ページ数が非常に多く、第 1・2 項、第 3・4 項、第 5～7 項、第 8・9 項で重複が多い。年代ごとに市長の発言や状況を細かく追っているが、重複をまとめて項目を減らしたい。現状（102 ページ）を 5 分の 1 程度（20 ページ以内）に減らしてバランスを取る。また、市長の施政方針演説や予算をベースとせず、最終的にどうなったか、結果（実施したのか／いつまで行ったのか）や決算を確認してまとめてほしい。

▶第 3 章第 3 節、第 7 章第 4 節のモンキーパーク・モノレール線：詳細は観光分野でまとめてはどうか。第 3 章の鉄道分野は冒頭の記述のみ残して「詳細は第 7 章参照」とする。

▶第 6 章第 4 節、第 10 章第 3 節の愛知万博「山車百輛総揃え」：民俗班パートの記載を調整し、愛知万博の項目（第 10 章）に集約してはどうか。

▶第 8 章／第 1・5・6 章の民俗関連：メインとなる第 8 章のほか、他章にも各分野に関連した伝統文化の内容を入れた。各章で丁寧に説明しようとする、どうしても同内容が繰り返し出てくる印象。やはりメインの章にまとめた方がすっきりするのではないか。

#### 【構成変更】

▶第 3 章第 2 節の都市インフラ：関連ある項目を続けて記述するため、項目の順番を入れ替える。第 4 章のごみ処理施設も移動させ、①上下水道→②し尿処理施設→③ごみ処理施設→④尾張北部聖苑→⑤公園 という構成にする。

#### 【小見出しの付け方】

▶計画名などをそのまま小見出しにしているものが多い。文字数 15 字以上のものも散見される。執筆要領で「小見出しは 2 行割で 14 字以内」としているので再度チェックしてほしい。単なるキーワードではなく、内容がある程度伝わる表現がよい。

### 【発言の取り扱い】

▶第2章第5節「議員の中にもこの『新都市構想』は『夢のような計画』だと好意的に受け止める意見もあった。」：「夢のような」は「すばらしい」という肯定的な意味にも「現実味のない」という否定的な意味にも受け取れる。この議員が明確に賛成していたのかどうか確認する必要がある。市議会会議録では判別がつかなかった。

▶第2章第6節「犬山市長は江南市が合併に前のめりで、三市二町には合併への温度差があった、とこれら報道を見た感想を市議会で発言した。」：「合併への温度差があった」が犬山市長の感想であるように読めるが、市議会会議録によると、犬山市長が江南市長の発言を引用して答弁しているようである。

▶誰が何を言ったのかを十分に確認しなければいけない。会議録や新聞を引用して書く場合、発言者の意図や趣旨が誤って伝わるおそれもある。発言自体が一部の偏った意見や、中心となる議論とは別のやりとり、部分的な切り取りになっている場合もある。発言単体の直接的引用をメインとせず、周辺の議論を踏まえた記述になっているとよい。当事者や関係者の多くが存命のため、発言は特に慎重に取り扱う必要がある。

### 【全体的な印象】

▶文章が難しい箇所がまだある。一文が長くなると複雑で意味を取りづらくなる。

▶地理班の統計で、文章と表・グラフにズレがあるように感じる部分があった。一般の読者にもわかりやすいよう補足説明の要否を検討してほしい。

▶多様な資料に基づき、出来事を並べて書いた段階かもしれない。社会背景や、なぜ平成の犬山で取り組まれたかを踏まえて、予備知識の有無に関わらず読めるものにしていきたい。

部会長：1月13日に私と事務局等で読み合わせ、打ち合わせをした。いま事務局が伝えたように問題点の修正を対応・方針案として示したが、これが全てではないと思う。

項目の配置・構成が適切でなく入れ替えをしたものもある。重複の指摘箇所は、それぞれで書き方が異なるため一概に統合しろというものではない。各担当で検討、調整してほしい。

資料の読み取り、解釈は書き手と読み手でずれる場合もある。執筆者は資料に密着しており、ある種“思い込み”で書いている。少し離れた目で見ると違うのではないかと、ということもある。今後も色々な指摘が出てくる可能性はある。

書き込み不足という問題もあった。これも書き手には何が足りないかが見えていない場合もあるので、執筆者と事務局のやり取りが必要になってくる。

小見出しの入れ方は、頻度や表現にばらつきがある。まだ入っていない原稿もあった。執筆要領では「2～3ページに一つ」「2行割で14字以内」と定めた。読み手のことを考えて、適切であるかどうかの判断をしてほしい。

文章表現、言い回しも執筆者によって違う。読者の立場に立って、できるだけ読みやすくなるようチェックしてほしい。

今後、皆さんにも通読してもらい、ご自身の原稿と他の関連原稿を照合のうえ、再検討をお願いしたい。

委員：第1章のまちづくり関連で総合計画、都市計画マスタープラン、中心市街地など市の施策がたくさん出てくる。すべては詳述できないが、どの程度触れておくべきか。

部会長：簡単な説明は必要だが「詳しくは第〇章参照」でいいのではないかと。今後、他章を通読し

たうえで叙述を調整してほしい。

委員：第3章の農業分野でかんがい施設として入鹿池を扱ったが、内容的に浮いてしまった。土地改良や圃場整備の説明も補足する予定だ。農業集落排水にも触れる必要があるか。

事務局：農業集落排水は上下水道の項で触れている。

部会長：入鹿池はコラム形式で書かれていたが、他の原稿ではコラムがなかった。ため池（水環境）等の項目に入れ込むことはできないか。

委員：農業分野の最初の方に入れようと考えている。

部会長：農業や環境の分野で文字数の多い小見出しがあった。調整をお願いしたい。

委員：「山車百輛総揃え」を第10章に統合する案は、「国際化」とは少し違うので対応が難しい。万博をきっかけに犬山市が主導し、県内での連携が強まった。あれで継承の普及が高まった面もある。表現を変えるか。市民活動に近いかもしれない。

部会長：やはり継承に関わる問題か。他の再構成と併せて処理をお願いしたい。

委員：市の刊行物（石上げ祭関連）に載っている表を転載したいが、データはあるか。また、本文中に入れる写真にキャプションは必要か。提供元は記す予定だ。

事務局：表の元データがない場合は紙媒体をスキャンして掲載する。写真や図表には通し番号を入れる。キャプション・タイトルは必要である。

部会長：写真の情報は最小限にはなると思う。表は注釈が必要な場合もある。

委員：参考文献を全部載せると大量になり他章とも重複する。市の刊行物は省いてよいか。

事務局：市の総合計画など、多くに共通する資料は巻末の参考文献でもまとめて記載することになる。現段階ではファクトチェックのために逐一、示しておいてほしい。

委員：年代の終点について。これまで令和4年としていたが、それ以降の内容まで載せるかどうか悩ましい。統計や観光施策では新しい動きもある。

部会長：コロナ禍の内容は健康分野と民俗分野（祭礼関連）で触れている。

委員：コロナ禍の影響が大きかった石上げ祭や豊年祭で大きく取り上げている。

事務局：「コロナ禍の影響を受けた」で終わるか、「コロナ禍の後に回復して最高値を記録した」とするかは個別の事案によるのではないか。尻切れトンボにならないよう、結末がわかっているものは近年まで含めてもよいと思う。

部会長：既に決着している福祉会館の問題は跡地の発掘調査も含めて書くことにしている。執筆者の構想に従って、伝えたい内容を書いたらどうか。叙述の締めくくりで言うと、例えば民俗班は祭礼の将来の予測を含めて書いている。そういう書き方もいいと思う。

部会長：議会運営や選挙の項目で、議員名や会派を含めて人事を詳細に記していた。読み合わせでは、現存する方の評価に関わる内容は避けるべきだという判断をした。資料編でも、市長名は出したが市職員の名前は出していない。また、特定の会派だけ取り上げるとバランスが悪い。その辺の微妙な判断は事務局に任せてもらいたい。

委員：顕彰する訳ではないが、特定の人物を大きく取り上げる内容は問題だろうか。

事務局：特に目立った部分だけを論点とした。もう少しフラットに扱えるとよい。

部会長：事務局の印象を伝えたが、章責任者の通読によって判断してほしい。平成期はどうしても同じ人物が繰り返し出てくるが、他の人物も存在する。

委員：祭礼関連で功労者を取り上げる内容がある。抑えたつもりだが、伝統文化の面で貢献が大きく、受賞したのは事実なので書いた。

部会長：このような確認を積み上げ、対応方針を決めて処理する作業を進めていく。多少、軋轢が生じる可能性もあるが当然のことだ。今後は、6月の入稿に向けて以下の流れを想定している。

- ①出揃った原稿を事務局・部会長・章責任者が通読（1月下旬～）
  - ▶内容の調整（重複の確認、配置換え）
  - ▶項目・小見出しの検討
  - ▶文章の点検（文体、用語、言い回しなど）
  - ▶図版の確認、差し替え
- ②検討の結果を各執筆者に返却し、調整・修正を依頼
- ③専門部会で修正原稿の調整・点検（2月下旬、3月下旬）
  - ※協議が必要な事項は各委員の意見を聞いた上で判断、決定
- ④入稿前最後の専門部会で最終原稿案を決定（5月連休明け）
- ⑤事務局・部会長が最終原稿案を点検し、完成原稿を作成
  - ※修正箇所が出た場合は事務局が個別に執筆者との間で連絡、処理
- ⑥口絵の選定等は事務局が適正な候補を提案し、専門部会で決定

委員：担当章で割り当てページ数が超過している。今後は章責任者の裁量でページ数を調整していくことになるか。割り当て数ぴったりがいいのか、少し多めにしておくのか。図版のレイアウトもあるので、ページ数の調整が最優先になるかと思う。

事務局：まずは各章で内容を精査し、明らかな文章の重複は修正して割り当てページ数に収まるようにしてほしい。現状は事務局でWordフォーマットへの流し込みをしている。そのデータに図版を貼り付けたり枠を挿入したりして、図版を入れた場合のページ数を出してほしい。写真のサイズは横に2つ並ぶ程度を想定していただけるとよい。

委員：観光・文化班ではページ数が多い章と少ない章がある。合計が変わらなければ、同じ班内で割り当てページ数を融通し合ってもよいか。

部会長：構わない。実際は半端な空きが出たりしてページ数は最後までわからないが、近い形になればありがたい。見開きに一つ、図版用のスペースを設けるだけでもよい。

部会長：今年度末までに、典拠資料を添付のうえ、編さん支援業者にも原稿チェックしてもらうことになっている。事務局、章責任者、編さん支援業者で確認することになる。

事務局：昨年10月頃に一度チェックを受けたが、原稿の提出量も少なく（3～4割）、典拠資料のない素読みだった。未チェック部分を中心に作業を依頼し、年度末までに完了してもらう予定。執筆の根拠になった資料は、該当部分のスキャンデータや写真、コピー等を事務局まで至急ご提出いただきたい。

部会長：自治体史編さんのプロの目を通す。典拠資料は資料編の時より数が多い。未提出の方は、新聞記事、会議録、刊行物の該当部分を改めて揃えてもらうことになる。

事務局：本日の専門部会の内容を共有のうえ、まずは未提出分の原稿、図版データ、典拠資料をご提出いただく。年度内に編さん支援業者によるチェックを終えるため締切は1月末とする。

### 3. その他

- ・次回の専門部会は令和8年2月24日（火）午後4時～（犬山市役所2階203会議室）の予定。詳細は改めて連絡する。